

令和8年用えだまめ病害虫防除基準

※えだまめと乾燥秘伝（大豆）では、農薬は同じでも使用方法、時期が異なる場合がある。
※殺虫剤を散布する場合は、訪花昆虫に対する薬剤ごとの安全使用基準を徹底する。

発行：JAさがえ西村山
さがえ西村山野菜振興協議会

病害虫 重点防除	時 期	は 種 前	開 花 前	開 花 7 日 後	開 花 15 ～ 20 日 後
	殺虫剤	クルーザーFS30 クルーザーMAXX のいずれかを塗沫処理する。	スミチオン乳剤 オルトラン水和剤 のいずれか	トレボン乳剤 ヨーバルフロアブル のいずれか	スタークリーク颗粒水溶剤 アグロスリン乳剤 のいずれか
	殺菌剤		(Zボルドー) (フェスティバルC水和剤)	(バリダシン液剤5) (ランマンフロアブル)	ゲッターワ和剤

【害虫防除】

作業 コード	R A C コード	薬剤名	使用方法				対象害虫								注意事項		
			倍率 (薬用/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	タネバエ	フタスジヒ メハシ	アブラ ムシ類	カメムシ類	ハスモ ヨトウ	マメシ クイガ	ダイス サヤ	タマバエ	ハダニ類	ネキリ ムシ類	
播種前	4 A 12 4	クルーザーMAXX	乾燥種子1kg当たり原液8mℓ 塗沫処理		播種前	1 回	●	●	●							●	●登録：ハト、キジバト ※クルーザーMAXX、クルーザーFS30の他に薬剤を処理する際は、先にこれらを処理し、よく乾燥させてから使用する。 ※クルーザー剤の総使用回数は1回とする。
	4 A	クルーザーFS30	乾燥種子1kg当たり原液6mℓ 塗沫処理		播種前		●	●	●							●	●登録：カラス、ハト ※チウラム剤処理済みの種子にはキヒゲンR-2フロアブルを使用しない。 ※ハトの慣れ、周囲のえさの有無により効果にむらがあるので注意する。
	M 3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子1kg当たり原液20mℓ 塗沫処理		播種前	1 回	●										●登録：カラス、ハト ※チウラム剤処理済みの種子にはキヒゲンR-2フロアブルを使用しない。 ※ハトの慣れ、周囲のえさの有無により効果にむらがあるので注意する。
	1 B	ダイアジノン粒剤5	10a当たり6kg 作付前：全面土壤混和又は作条土壤混和する。 作物生地中：作条処理して軽く覆土する。		30日前	5回以内 ※生育期の処理は4回以内	●									※●	●登録：コガネムシ類幼虫 ※ネキリムシ類防除は土壤表面散布
播種前又 は播種時 又 播種時	1 A	バイデートL粒剤	30kg/10aを全面土壤混和又は6kg/10aは種前又は定植前		1 回												●登録：ダイズシストセンチュウ ※連作を避ける。 ※同じ薬剤の連用をしない。
		ネマキック粒剤	20kg/10a 全面土壤混和		は種又は定植前	1 回											●登録：ネキリムシ類の産卵を抑えるため、播種前から除草対策の徹底を図る。 ※タネバエの使用時期は「播種時」のみの登録のため注意する。
	1 B	カルホス微粒剤F	6kg/10a 土壤表面散布土壤混和処理		播種時又は定植時	1 回											●登録：カスケードモード
					播種時	1 回	●										●大豆での登録は、使用時期が播種時～本葉期である。
生育期	1 B	ネキリエースK	3kg/10a 土壤表面株元処理		21日前	2回以内										●	●登録：ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ
		スミチオン乳剤	1,000倍 100～300ℓ			4回以内		●	●		●	●					●登録：ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ
		オルトラン水和剤	1,000倍 100～300ℓ			3回以内		●		●							●大豆では登録は、使用時期が播種時～本葉期である。
		トレボン粉剤DL	4kg/10a 敷設		14日前	2回以内		●		●	●	●	●				●登録：シロイチモジマダラメイガ ※エトフェンプロブロックスを含む（トレボン）総使用回数は2回以内
		トレボン乳剤	1,000倍 100～300ℓ			●		●	●	●	●	●					●登録：ウコンノメイガ、シロイチモジマダラメイガ
		アグロスリン乳剤	2,000倍 100～300ℓ		7日前	3回以内		●		●	●	●					【マメシクイガ対策】豆の肥大期に2～3回薬剤防除を行うとよい。
		ダントツ水溶剤	2,000倍 100～300ℓ		前日	3回以内		●	●	●		●					※大豆では使用時期が収穫7日前までである。
	4 A	スタークリーク颗粒水溶剤	2,000倍 100～300ℓ 3,000倍 100～300ℓ		7日前	2回以内		●	●								※ジノテフランを含む（スタークリーク）総使用回数は2回以内
		スタークリーク粉剤DL	3kg/10a 敷設			1 回		●				●					※大豆には登録がない。
	21 A	ダニトロンフロアブル	1,000倍 150～300ℓ														
	28 15	ミネクトエクストラSC	10,000倍 100～300ℓ														
	28	ヨーバルフロアブル	5,000倍 100～300ℓ														●登録：ウコンノメイガ ※大豆では使用時期は収穫7日前/使用回数は2回以内
	30	プロフレアSC	2,000倍 100～300ℓ														●登録：ウコンノメイガ
	UN	プレオフロアブル	1,000倍 100～300ℓ														※大豆では使用時期は収穫7日前まで

【病害防除】

作業 コード	R A C コード	薬剤名	使用方法				対象病害						注意事項	
			倍率 (薬用/水10ℓ)	散布量(10a)	使用時期 収穫前日数	使用回数	紫斑病	茎疫病	菌核病	ベト病	莢汚損症	葉焼病		
播種前	4 A 12 4	クルーザーMAXX	乾燥種子1kg当たり原液8mℓ 塗沫処理		播種前	1 回	●	●						●登録：黒根腐病
	M 3	キヒゲンR-2フロアブル	乾燥種子1kg当たり原液20mℓ 塗沫処理			1 回	●							
生育期	2	ロブタール水和剤	1,000倍 100～300ℓ		30日前	3回以内			●					※大豆では使用時期は収穫21日前まで
	M 1	Zボルドー	500倍 100～300ℓ		—	—				●				●登録：斑点細菌病 ※水稻（穂ばらみ期～出穗期）に薬害ができるので、飛散しないように注意する。
	40 M 1	フェスティバルC水和剤	600倍 100～300ℓ		前日	3回以内		●		●		●		●登録：斑点細菌病 ※大豆では使用時期は収穫7日前
	11	アミスター20フロアブル	2,000倍 100～300ℓ			3回以内				●				※大豆では使用時期は収穫7日前/使用回数は2回以内
	10 1	ゲッターワ和剤	1,500倍 100～300ℓ		7日前	3回以内	●				●			※大豆では1,000倍/使用時期は収穫14日前
	U18	バリダシン液剤5	500倍 100～300ℓ			3回以内						●		
	21	ランマンフロアブル	1,000倍 100～300ℓ		3日前	3回以内	●		●	●				※大豆では使用時期は収穫7日前まで
	40	レーパスフロアブル	1,500倍 100～300ℓ		7日前	3回以内	●		●					

★イソキサチオンを含む剤（カルホス微粒剤F、ネキリエースK）の総使用回数は5回以内とする。（粉剤及び粒剤の播種時の処理は合計1回以内、粉剤及び粒剤の定植時は合計1回以内、粉剤の土壤表面散布は1回以内、粒剤の土壤表面株元処理は2回以内）ただし、乾燥秘伝として収穫する場合は、同一成分の総使用回数が2回以内なので注意する。

★トリフルラリンを含む剤（トレファノサイド粒剤2.5、トレファノサイド乳剤）の総使用回数は2回以内とする。（全面土壤散布は1回以内、畝間土壤散布は1回以内）

★合成ビスロイド剤は（アグロスリン乳剤、トレボン粉剤DL、トレボンMC、トレボン乳剤）虫・魚類に対する毒性が特に強い。また、抵抗性害虫出現防止のため総使用回数は2回以内とする。

★農薬の使用にあたっては、使用回数に加え、有効成分ごとの総使用回数も定められているので遵守する。

除草剤使用基準（えだまめ）

薬剤名	RAC	10a当たり 薬量/散布量	使用時期・使用方法</